

JAMS NEWS

Japan Association for Management Systems

日本経営システム学会 〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-3 バラードハイム703

日本経営システム学会 第42回全国研究発表大会のご案内

日本経営システム学会第42回全国研究発表大会は、平成21年5月23日(土)、24日(日)に、新潟国際情報大学で開催されます。つきましては、多くの方のご参加をお願い申し上げます。

記

開催日：平成21年5月23日(土)、24日(日)

開催場所：新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス

〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7番町1169

アクセスマップ (<http://www.nuis.ac.jp/shoukai/map/index.html#ncc>)

連絡先：新潟国際情報大学 佐々木桐子

〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1

TEL:025-239-3713 FAX:025-239-3690 E-mail:tohko@nuis.ac.jp

統一論題：「経験による地域創造 -新潟における教訓と課題-」

基調講演：平山 征夫 氏(新潟国際情報大学学長 前新潟県知事)

「市場主義の行き詰まりと地域企業の新たな役割」

特別講演：山岸 豊後 氏(原信ナルスホールディングス株式会社 常務取締役)

「地元スーパーにとっての中越地震、中越沖地震とその後の災害対策」

参加費：会員5,000円、非会員6,000円、学生会員3,000円(当日支払いは1,000円高)

非会員の学生は当日支払いの学生会員と同額の4,000円

懇親会費：会員5,000円、非会員6,000円、学生会員5,000円(当日支払いは1,000円高)

昼食：23日(土)は1階カフェテリアが利用できます。24日(日)は利用できませんが、周辺には飲食店等がたくさんありますのでご利用ください。

宿泊等：大学周辺には、たくさんのホテルがありますのでご利用ください。

参加申込：次号JAMS NEWSに同封の振込用紙にて、5月8日(金)までに上記金額をお振り込みください。期限後に振込みされた方は、当日振込用紙の控えまたはコピーをお持ちください。

発表申込：本JAMS NEWS 8頁の研究発表申込書に必要事項を記入の上、3月27日(金)まで(厳守)に学会事務局宛に Fax. (03-3371-5185) して下さい。申込書ダウンロード、フォームによる申込みは学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams2/>からも出来ますのでご利用下さい。

発表原稿締切：4月24日(金)まで(厳守)、学会事務局宛

■学会発表に関する原則について

当学会では、口頭発表に関して JAMS NEWS 2 頁(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams2/html/prerule.htm>)に示すような原則に従って運営しています。口頭発表を申し込まれる前に、ぜひご確認ください。

■大学院生の方へ(学生発表優秀賞について)

学生セッションでは、優秀な発表を審査して学生発表優秀賞を授与しています。大学院生であれば、正

会員・学生会員に関係なく学生セッションにエントリーすれば審査の対象となります。ただし学生セッションの発表原稿は、会員の種別に関係なく2ページとなります。不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。

大会会場へのアクセス

- JR 新潟駅万代口より市内バス「本町」まで約5分、「本町」下車徒歩約1分
- JR 新潟駅万代口より徒歩24分



学会発表に関する原則について

当学会では、研究発表大会をスムーズに運営するために、口頭発表に関して次のような原則に従って運営しています。口頭発表を申し込まれる前に、ぜひご確認ください。なお、この原則は、大会委員会および大会実行委員会により運用されます。不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。

1. セッションの種類と発表の資格

一般セッションでは、正会員だけが口頭発表できます。学生セッションは、大学院生であれば、正会員・学生会員ともに口頭発表できます。

2. 学生会員の発表条件

学生会員は正会員と連名でなくては、どのセッションでも発表できません。

3. 連名者の資格

研究発表の連名者は、全員会員でなくてはなりません。また、大会当日は、連名者も大会に参加するこ

とを原則とします。

4. 発表件数の制約

同一のファースト・オーサーによる研究発表は、3件目からは1件あたり5,000円を徴収します。

5. 口頭発表者の参加費支払い

口頭発表者は、発表原稿の提出時に参加費を支払うものとします。

6. 参加費の返還について

既納の参加費は、理由のいかんを問わず返還しませんのでご注意ください。

7. 発表のキャンセルと無断欠席

大会直前に発表キャンセルや無断欠席をされた場合には、次回以降の発表をお断りすることがありますので、十分ご注意ください。

会長任期満了の年を迎えるにあたって

日本経営システム学会 第14期会長 能勢 豊一

日本が国際社会において何を主張し、貢献するかを考えると、かつては日本の経営や現場の品質管理が、21世紀に入るとIT、あるいは電子立国が、そして今日に至ってはモノづくりと知財戦略が話題になっています。このようにモノづくりの対象は、「モノ」から「プロセス」、「情報」、さらに「ブランド」へと推移してきました。すなわち、良品を「作る」という設計視点に始まり、それをより良い方法で「造る」という製造視点へ、そのためにどのような良い基盤を「造る」という情報システム視点へ、さらに良いコンセプトと組織のもとで「創る」というトータルシステムの視点へ変遷を遂げてきました。

かつてのモノづくりは、現場の職人による暗黙知を中心としたアナログな技術に頼ったものでしたが、テクノロジーの導入は形式知を中心としたデジタルな技術によるシステム化を推し進めました。しかし、現場で判断されていた事象のシステム化が進む間に、現場の技能は失われてきました。あらゆる組織は、システム化・ブラックボックス化した途端、陳腐化が始まるといわれます。それゆえにそのような陳腐化のリスクを回避するための仕組みを実現させるとすれば、環境変化に速やかな適応ができる新陳代謝機能を備えたシステムづくりとなるでしょう。

近江商人はなぜ商売がうまくいったか？近江商人の三方良し、というフレーズが今にその極意を伝えています。商品良し、商人良し、買手良しということです。この三方良しは、モノづくりの技術にもあります。すなわち、技術にはテクノロジーとエンジニアリングとスキルの3つがあります。テクノロジーは編み出した技術、エンジニアリングは編み出す技術、そしてスキルはその両者を使いこなす技術です。これら3つの技術をマネジメントするのが技術経営（MOT）です。

あらゆるシステムは、システム化して高度なブラックボックスに到達した途端、急速に陳腐化してゆきます。それはあたかも「光」と「影」がセットになっているのと同じです。弱い光の下では、淡い影ができます。しかし、その影をなくそうとして強い光を当てると、前にもまして濃い影を作ってしまう。テクノロジーが光だとすると影はその副産物なのです。経済学者の都留重人氏は製品をGoods、その副産物をBadsと称して公害の存在を指摘しました。それゆえに製品やシステムの高度化が行き着く先は陳腐化であり、それに気付かないと増大するリスクを抱えることとなります。そのようなリスクを回避するための新陳代謝機能、すなわち、イノベーションが不可欠となるでしょう。

従来のイノベーションはテクノロジーやエンジニアリングが中心でした。しかし、現在もしそのような轍を歩むとすれば、「優良企業は優位性を維持するため製品性能を高めようとするが、ある段階で機能が過剰となって値段が上がり、安価で勝負する新規企業に負けてしまう。」というイノベーションのパラドックスを引き起こしてしまいます。ソニーのプレイステーション3と任天堂のWii、日本の家電各社とアップル社、日本の携帯電話各社とアップル社、日本メーカーのパソコンと台湾メーカーのパソコン等々はその典型といえるでしょう。

自然な形でイノベーションのシステムが実現しているのが現存する生物です。ホロン経営、生物学的生産システムというのがありますが、これまで多くのシステムは無生物的な範疇でコントロール可能なメカニズムによって造られ、特に学問の世界においては普遍的なものに価値が見出されてきました。一方、現存する生物とは、まず、日々新陳代謝をしつつも、一定の期間は統一体を保つという、変化しつつも変化しないものを有する有機体です。もし、新陳代謝がなく、有機体を構成する細胞が永遠の寿命を持つとす

れば、本来の有機体の形を保ち続けることはできません。すなわち、今日に生き残るためには環境に適応して変化をしなければならぬし、また一方で長いスパンで生き残るためには変化しないものを維持しなければ生き残れないのでしょうか。

近江商人の考え方は、あらゆる世界に言えることです。米国ナイズされた考えを突き詰めて、それに取りつかれると、権利だけを主張するモンスターになってしまいます。法律に触れなければ何だって許されるという思いはホリエモンが描いた世界でした。このことが示す点は、環境に適応しすぎた時に一面では至極合理的に思える行動が、自滅への行動に繋がっているという一種のパラドックスが存在することです。環境経営が教えてくれた新しいものづくりの世界が、作りやすく壊しやすいシステム、一定の寿命の下に新陳代謝があるシステムです。

経営システム学会は今年第 15 期の会長に選出されました松丸正延先生をはじめとする役員の皆様による執行部がスタートします。執行部は新しく新陳代謝されたものになりますが、28年前の1981年4月に尾関守先生が設立された当初の学会の精神は会員の間で今日まで受け継がれて来たからこそ現在の姿があると思います。第 15 期の執行部では 30 周年という別の意味で新陳代謝を遂げる節目にも当たっております。日本経営システム学会の、そして会員の皆様の悠久の発展を祈念して第 14 期会長の挨拶とさせていただきます。

第 41 回全国研究発表大会の報告

大会実行委員長 石田 修一

日本経営システム学会第 41 回全国研究発表大会が、2008 年 12 月 6 日（土）、7 日（日）、立命館大学で開催されました。今回は「技術経営と経営システム」という統一論題のもと、178 名の方が参加され、64 件（うち学生発表 32 件）の研究発表が行なわれました。

初日は、統一論題に沿って、基調講演として大阪大学の池田順治教授から『新たな社会学連携によるイノベーション創出を求めて』という演題でご講演をいただいた後、特別講演としてパナソニック㈱のプラズマディスプレイ事業のビジネスユニット長である長野寛之氏に『グローバル競争下のプラズマテレビ戦略』というテーマで熱のこもったご講演をいただきました。また初日の全発表終了後に行なわれた懇親会にも多数ご参加いただき、交流を深めることができました。

師走のお忙しい中、多くの方にお出でいただき、活発な研究発表ならびに議論を賜りました。皆様のご協力をおもひまして、無事本学での研究発表大会を開催、終了することができました。ここに厚く御礼を申し上げます。

JAMS 学生研究発表優秀賞について

表彰委員長 浅井 重和

平成 20 年度第 41 回全国研究発表大会（於：立命館大学）終了後、表彰委員会を開催し、司会者のご意見を聴取しながら慎重に表彰候補者を選考いたしました。その後、理事会の審議を経て下記の 2 名が学生研究発表優秀賞に決定しましたのでご報告いたします。

1. 「遺伝的プログラミングを用いた株式市場におけるシステムトレードの研究」
奥川 哲也（東海大学大学院）
2. 「製品の基幹技術における方式選択と技術競争の研究
—冷凍空調用圧縮機における方式変遷の分析—」
村松 繁（立命館大学大学院）

被選出常任理事および会長選挙結果報告

役員選出委員会

会員の皆様には被選出常任理事選挙にご協力いただき誠にありがとうございます。

被選出常任理事選挙投票は平成 21 年 1 月 16 日（当日消印有効）に締め切り、1 月 20 日（火）学会事務局にて柳田義継（麗澤大）、清水一之（明治大）、浅井亮子（明治大）3 名の立会の下、開票作業を行いました。投票総数 193 通の内 2 通は期日後の投函が確認され無効といたしました。有効投票 191 通について開票後集計作業を行った結果、以下 15 名の方々が当選となりました。

野々山 隆幸（横浜市立大学）	林 誠（愛知淑徳大学）	浅井 重和（宮崎産業経営大学）
椎原 正次（大阪工業大学）	塩出 省吾（神戸学院大学）	山下 洋史（明治大学）
上原 衛（愛知淑徳大学）	松丸 正延（東海大学）	石原 辰雄（東海大学）
野口 博司（流通科学大学）	羽田 隆男（事業創造大学院大学）	上野 信行（県立広島大学）
浅井 達雄（長岡技術科学大学）	奥原 浩之（大阪大学）	小田 哲久（愛知工業大学）

（敬称略、選挙届出順）

また、上記被選出常任理事の方々により郵送投票による会長選挙を実施し、2 月 10 日に学会事務局において開票作業を行いました。有権者 15 名全員の投票があり、選挙規程にある有権者の 3/4 以上の投票数が満たされ、有効投票数の過半数を上回る得票が認められましたので、松丸正延先生が次期会長に当選されました。

以上の通りご報告させていただきます。

平成 20 年度第 3 回理事会のまとめ

- I. 開催日時：2008 年 12 月 6 日（土） 11 時 00 分～12 時 00 分
- II. 開催場所：立命館大学 びわこ草津キャンパス エポック立命 21 K304 教室
- III. 出席者：能勢、小田部、島田、浅井、今井、金子、木全、高橋、立川、常田、原田、松岡、石原、泉井、小田、佐藤、塩出、下左近、寺本、中桐、野々山、羽田、松丸、宮下、椎原
オブザーバー）石田、佐々木（敬称略）
- IV. 審議事項
 1. 2008 年度第 2 回理事会の議事録の確認（椎原）
配付資料の通り説明され報告された。
 2. 大学評価機関別認証評価専門委員候補者推薦について（能勢）
常任理事を中心にした前回と同じメンバーを配付資料の通り推薦したことが報告された。
 3. 第 41 回全国研究発表大会について（石田）
全国大会の準備状況について報告があった。事前受付は、115 名とのことであった。
 4. 他学会への協賛について（原田）
配付資料の通り説明され了承された。
 5. 国際大会（ICBI2008）の決算について（立川）
配付資料の通り説明され了承された。
 6. 経営関連学会協議会について（野々山）
配付資料の通り、理事会、評議員会と講演会について報告された。
 7. 横幹連合からの要望について（能勢）
配付資料の通り会長懇談会の結果について報告された。また、来年度の第 3 回横幹コンファレンスの開催に協力する旨の依頼があった。

V. 報告事項

1. 第 42 回全国研究発表大会について(佐々木)
第 42 回全国大会は、新潟国際情報大学で 5 月 23・24 日に開催される予定である。配付資料の通り、統一論題やスケジュール等について説明された。いくつかの議論があった後に、実行委員会に一任することが了承された。また主催校と開催日については、早急に Web サイトにアップすることになった。
2. 第 43 回全国研究発表大会について(立川)
2009 年秋の大会については、九州産業大学の稲永先生にお願いすることが了承された。そして、主催校を Web サイトにアップすることになった。
3. 役員選挙について(松岡)
郵送による会長選挙について確認された。そして配付資料の通り、具体的な選出手順について説明があり了承された。また会長選挙の投票数については、規程を満たすように役員選出委員会が督促することが了承された。
4. 英文誌について(椎原)
配付資料の通り準備状況について説明があり了承された。
5. 会員の入退会について(椎原)
配付資料の通り準備状況について説明があり了承された。適当な推薦者がいない希望者については、慣例に従い総務委員会が推薦者になることが了承された。この結果、正会員が 510 名、学生会員が 133 名になったことが報告された。
6. 学会のシンボルマークについて(能勢)
国際大会の準備時に学会のシンボルマークが必要となった。そこで、今後のために組織委員会にシンボルマークについて議論していただくことが了承された。
7. 英文のホームページについて(能勢)
国際大会の準備時に英文の学会ホームページが必要となった。そのために、急遽、総務委員会でホームページを作成して対応した。今後については、広報委員会で検討していただくことが了承された。

経営モデル研究部会のお知らせ

開催日予定日時：2009 年 3 月 6 日（金） 15：00-17：00

開催場所：早稲田大学 14 号館 10F 1060 号室（予定）
校舎の地図は下記 URL にあります。

<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

発表予定者：ガムヤティ ワッチャラボン（東海大学大学院）

「Construct the cellular manufacturing system by using Ant Colony Optimization
(仮)」

連絡先：田畑 智章（東京富士大学） Tel.03-3368-2154 E-Mail:tabata@fuji.ac.jp

金子 勝一（山梨学院大学） Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

ヒューマン・リソース研究部会のお知らせ

開催日予定日時：2009 年 3 月 27 日（金） 15：00-17：00

開催場所：日本大学 生産工学部 30 号館 5F 小田部研究室

発表予定者：未定

連絡先（幹事）：金子 勝一（山梨学院大学） Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

平成20年度 年会費お振込みのお願い

当学会の学会誌発行等の活動は、会員の皆様の会費収入によってまかなわれることになっております。つきましては、平成20年度の会費を未だお振込みいただいていない方にはお振込みくださいますようお願い申し上げます。

入会者リスト

(2008.9.10~2008.12.6)

1. 正会員入会者

氏名	所属	氏名	所属
青木 彦治	ブラザー工業	鈴木 陽一郎	(株)日本海洋科学
浅見 登	(株)NETS	田中 延弘	事業創造大学院大学
天坂 格郎	青山学院大学	長野 寛之	パナソニック(株)
池田 順治	大阪大学	八田 一利	千葉工業大学
大谷 崇	近畿大学	原 耕平	金沢星稷大学
片野 浩一	明星大学	平野 禎幸	石川県立加賀聖城高等学校
久保田 明	ドコモモバイル中国(株)	堀内 龍文	拓殖大学 大学院
九里 圭佑	室蘭工業大学 大学院	山路 学	青山学院大学

2. 学生会員から正会員に変更

氏名	所属	氏名	所属
市倉 信義	武蔵工業大学 大学院	菅沼 直宏	シンコースポーツ(株)
在郷 俊介	アデコ(株)	日暮 容一	武蔵工業大学 大学院

3. 学生会員入会者

氏名	所属	氏名	所属
大谷 明巨	千葉工業大学 大学院	中村 尊裕	立命館大学 大学院
奥川 哲也	東海大学 大学院	長谷川 悠太	千葉工業大学
小野木正人	立命館大学 MOT 大学院	平田 貞代	東京工業大学 大学院
楠家 弘久	千葉工業大学	福島 貞美	明治大学 大学院
佐久間 勇行	国立大学法人 福島大学	三原 亮介	青山学院大学 大学院
史 文珍	愛知工業大学 大学院	村松 繁	立命館大学 大学院
しょうえつ	東海大学 大学院	持松 志帆	西南学院大学 大学院
臧 巍	明治大学 大学院	安井 迪城	東海大学 大学院
孫 志偉	愛知工業大学	李 陽	東海大学 大学院

受付番号 _____

日本経営システム学会 研究発表申込書

平成 21 年度 第 42 回全国研究発表大会

発表種類 (研究、部会) (発表種類のいずれかを○でお囲み下さい)

発表セッション区分 (一般セッション、学生セッション) (区分のいずれかを○でお囲み下さい)

口頭発表者会員種別 (正会員、学生会員) (会員種別のいずれかを○でお囲み下さい)

会員連絡先

会 員 名			
所 属			
住所 (勤務先・自宅)	〒		
連 絡 先	TEL	FAX	E-mail

論題および発表者

論 題		
ふりがな 発表者氏名 (所属)	1. ()	2. ()
当日の口頭発表者には*を付す	3. ()	4. ()
研 究 部 会 名 (研究部会発表の場合)	代表者名: ()	

発表要旨 (200 字以内・ワープロプリント貼付可)

キーワード (必ず記入)				

- 注: 1) 大会プログラムは、この申込書のキーワードおよび発表要旨により編成いたします。
2) プログラム、論文集目次の論題および口頭発表者・連絡者は申込書の記載どおりに掲載いたしますので、明確に楷書にてご記入下さい。(ワープロプリント貼付可)
3) 論文集原稿締切日までに間に合わない場合は、プログラムに掲載され、発表時間も確保されておりますが発表取り消しとしますので、ご了承ください

日本経営システム学会

住所 〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-20-3 パラードハイム 703

TEL03-3371-5324・FAX03-3371-5185

E-Mail: keieisvs@hh.iii4u.or.jp http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jams2